〈提出先〉

橋下徹大阪市長

提出年月日：2012年10月30日

水道局による水道記念館運営の怠慢と水族展示廃止の暴挙を許さないでください。

水道記念館と生物飼育の存続を考えるネットワーク

代表 綾 史郎

連絡先 〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-9-13 ハイム天神橋 202

TEL 06-6242-8720 (公益社団法人 大阪自然環境保全協会内)

私たちネットワークは、2012年9月4日、水道記念館早期再開と生物飼育存続を陳情しましたが、その陳情は、水道局の広報予算削減のためという理由で、継続審議となりました。

この件では、交通水道委員会で、各党派が市民の意見を十分聞き、納得いく説明を水道局に求めましたが、未だにこの陳情に対しての説明はありません。

また、陳情以前に提出した要望書や市民の声などに対する回答が、同じ文章であり、誠意ある説明とは思えません。

そのような事情から、今回、水道局の怠慢と暴挙を改善していただきたく、市長宛に以下を要望いたします。

1. 水道局の、過去3年間の水道記念館の運營業務委託料の内訳(決算)を見ると、全く同じ金額・数字が並んでいるのは、怠慢ではないか。その内容を公開してほしい。
2. 水道記念館のホームページには「本市における施策・事業の見直しの一環として、費用対効果などの観点からの精査を行なうため」に休館するとしていたが、精査はしたのか。その結果を発表すべきである。
3. 天然記念物イタセンパラを含む貴重な飼育生物と人工繁殖技術を、水道局は勝手に他へ譲渡し始めているが、これは市民の資産である。(闇市場価格にすると総額数千万円に推定される。)
4. 水道局は、えさ代削減を理由に水族展示を廃止し、巨額なリニューアル費を投じて、水道記念館をどうしようとしているのか、市民に説明すべきである。
(すでにアンケート調査分析だけでも、840万円のコンペを発表しているが、水族展示廃止を決定する前にすべきこと。)
5. 水道記念館の水族展示は広報施設としての一定の役割を終えたとしているが、水道局のPR施設にリニューアルするのは、水道局の自己満足の極みである。(水道局は、PRビデオの制作として、970万円のコンペを発表している。)

水道記念館は水道局の施設の前に大阪市の施設である。大阪市の誇る「日本一の淡水魚水族館」という大きな財産を、水道局の内部判断として、廃止していいのだろうか。

6. 水道事業が今後、広域の水道事業となっていけば、日本一の淡水魚展示をもつ水道記念館は、さらに利用価値が高まり、大阪府下全域の大きな資産となり得る。淡水魚展示を廃止するより存続させる方が、府市とも一層の広報展開ができるはずである。なぜ、大阪府や民間に協力を仰がず、大阪市の一局だけで水族展示部門の廃止を決定してしまうのか。
7. 水族展示が不可能なほど予算削減の必要性があるなら、なぜ、不要なダムの水利権に巨額な予算を毎年投じているのか。

水道記念館の飼育生物を分散・委譲すれば、大阪市民だけでなく、生物多様性を目指す国際社会の将来にとっても大変な損失になるので、生物の委譲を即時中止し、水道局の怠慢と暴挙を戒め、水道記念館を日本一の淡水魚水族館として維持していくよう、市をあげて努めてくださるよう、要望いたします。

以上